

2020年9月期 第2四半期 決算説明資料

2020年5月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ : 8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

目次

2020年9月期 第2四半期 連結業績概況	2
四半期業績推移（連結）	3
セグメント別業績	4
投資銀行事業セグメント一業務別売上高、売上総利益	6
エンタテインメント・サービス事業 業績等の推移	7
投融資残高の推移（FGI,FGT合計）	8
受託資産残高の推移	9
連結貸借対照表	10
連結損益計算書	11
中期経営計画の見直しの取りやめ、業績予想公表の延期	12
新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響と対応	13
連結経営指標等の推移	15
会社概要	16

2020年9月期 第2四半期 連結業績概況

(単位：百万円)

	2019/9期 2Q累計	2020/9期 2Q累計	増減額
売上高	3,277	4,269	+991
売上総利益	950	1,301	+350
営業利益	△1,467	△495	+972
経常利益	△1,567	△560	+1,007
親会社株主に帰属する四半期純利益	△1,244	△581	+662
償却前営業利益	△1,247	△29	+1,218

・償却前営業利益 = 営業利益 + 原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

- 前2Q (2019年3月16日)開業のムーミンバレーパークの運営収益が期初から貢献し増収。
開業準備費用がなくなり、その他一時的費用、人件費が減少して販管費は622百万円減 (25.7%減)。営業損益は改善。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ムーミンバレーパークを3月に16日間、臨時休園。業績は減速。
臨時休園期間中の固定費 (人件費、減価償却費等) 71百万円を特別損失として計上。

投資銀行事業

売上総利益 719百万円 (前2Q累計比 +339百万円)
セグメント損益 △35百万円 (前2Q累計比 +369百万円)

- ・業務受託、投資回収、航空機アセットマネジメント等が堅調に推移。
企業投資の減損等 (前2Q累計は360百万円) が減少し12百万円となったことにより、売上総利益が増加、セグメント損益が改善。

エンタテインメント・サービス事業

(売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。)

売上高 2,850百万円 (前2Q累計比 +1,287百万円)
セグメント損益 △160百万円 (前2Q累計比 +531百万円)

- ・ムーミンバレーパーク運営により売上高は82.3%増加。
- ・開業準備費用負担がなくなり、セグメント損益は大きく改善したが、多くの来園が期待できる3月に16日間臨時休園。
開園期間も外出自粛の影響も受け、2Qのメッツァ来園者数は直前四半期 (1Q)比で28.3%減少し22.5万人。売上高は27.0%減少。
- ・減価償却費は283百万円増の413百万円となる。(この他、特別損失「臨時休園による損失」71百万円の中に減価償却費31百万円計上)

四半期業績推移（連結）

（単位：百万円）

	2019/9期						2020/9期			直前四半期 (1Q) 比	前2Q累計比
	1Q	2Q	2Q累計	3Q	4Q	4Q累計	1Q	2Q	2Q累計	増減額 (増減率)	増減額 (増減率)
売上高	1,020	2,257	3,277	3,411	2,486	9,175	2,209	2,060	4,269	△ 149 (△ 6.7%)	+991 (+30.3%)
売上総利益	455	495	950	1,324	669	2,944	696	604	1,301	△ 91 (△ 13.2%)	+350 (+36.8%)
営業利益	△747	△720	△1,467	160	△356	△1,664	△258	△236	△495	+22 (-)	+972 (-)
経常利益	△804	△762	△1,567	121	△404	△1,850	△297	△263	△560	+33 (-)	+1,007 (-)
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△599	△645	△1,244	34	△376	△1,586	△284	△296	△581	△ 11 (-)	+662 (-)
償却前営業利益	△679	△568	△1,247	416	△104	△935	△5	△23	△29	△ 17 (-)	+1,218 (-)

・償却前営業利益は、営業利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

セグメント別業績 - 1

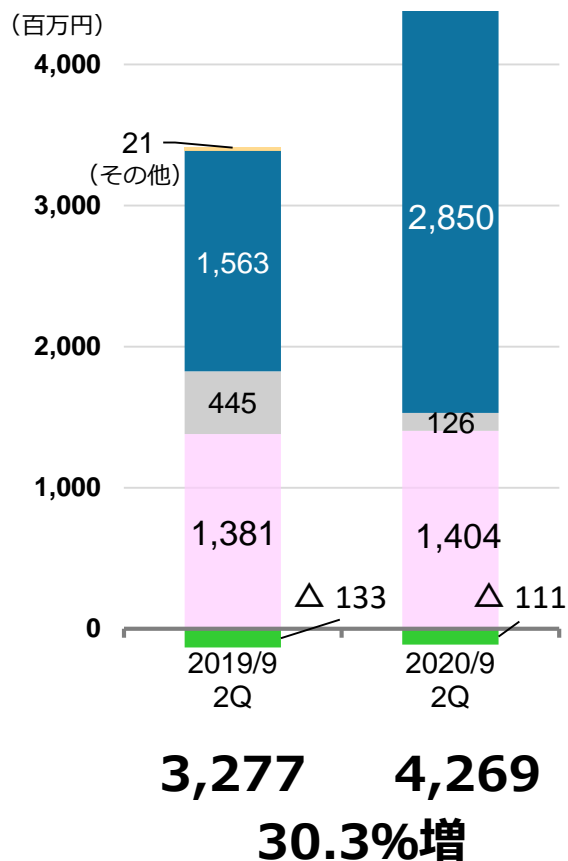
【単位：百万円】

報告セグメント		2019/9期						2020/9期			直前 四半期 (1Q) 比	前2Q 累計比
		1Q	2Q	2Q累計	3Q	4Q	4Q累計	1Q	2Q	2Q累計		
投資銀行事業	売上高	405	975	1,381	1,230	782	3,393	555	849	1,404	+294	+23
	売上総利益	249	130	379	466	293	1,139	316	403	719	+86	+339
	営業利益	△128	△276	△404	26	△100	△478	△71	36	△35	+107	+369
公共コンサルティング 事業	売上高	182	263	445	148	79	673	64	62	126	△1	△319
	売上総利益	88	149	237	78	47	364	33	34	68	+1	△169
	営業利益	10	65	76	△3	6	79	△7	△5	△13	+1	△89
エンタテインメント・ サービス事業	売上高	484	1,078	1,563	2,122	1,721	5,407	1,647	1,202	2,850	△444	+1,287
	売上総利益	131	228	359	808	376	1,545	376	190	567	△185	+207
	営業利益	△392	△299	△691	346	△78	△423	△18	△142	△160	△123	+531
その他	売上高	7	13	21	3	-	24	-	-	-	-	△21
	売上総利益	7	13	21	3	-	24	-	-	-	-	△21
	営業利益	△4	0	△3	△8	-	△12	-	-	-	-	+3
調整額 (セグメント間取引消 去又は全社費用)	売上高	△60	△73	△133	△93	△97	△324	△57	△54	△111	+3	+22
	売上総利益	△21	△26	△47	△32	△48	△128	△29	△24	△53	+5	△6
	営業利益	△232	△210	△443	△201	△185	△829	△161	△124	△286	+36	+157
連結P L 計上額	売上高	1,020	2,257	3,277	3,411	2,486	9,175	2,209	2,060	4,269	△149	+991
	売上総利益	455	495	950	1,324	669	2,944	696	604	1,301	△91	+350
	営業利益	△747	△720	△1,467	160	△356	△1,664	△258	△236	△495	+22	+972
関連事項		2018/11 メッツァ ビレッジ 開業	2019/3 ムーミン パレーパーク 開業			ジオブラン・ ナムテック、 アダコテック を連結除外						

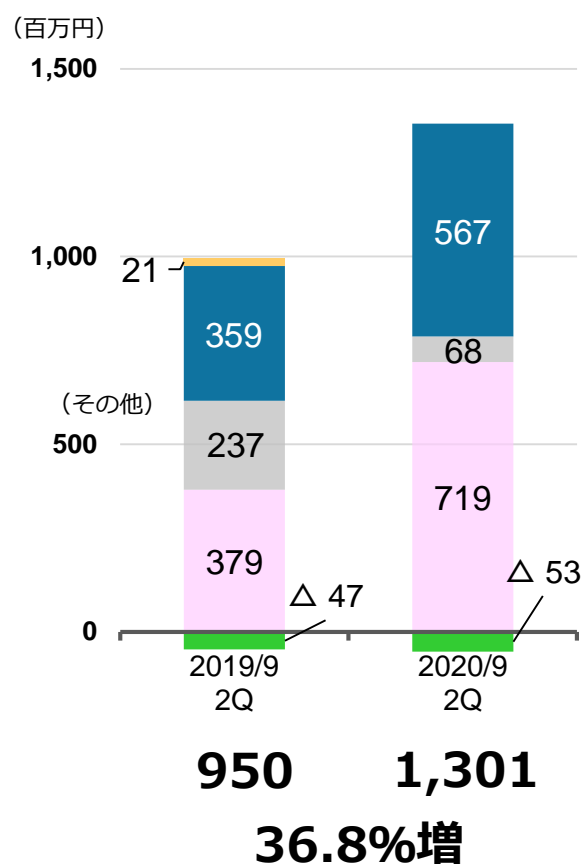
- 各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
- 調整額（営業利益）（2020年9月期2Q累計は△286百万円）には、セグメント間取引消去（2020年9月期2Q累計は119百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2020年9月期2Q累計は△405百万円）を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

セグメント別業績 - 2

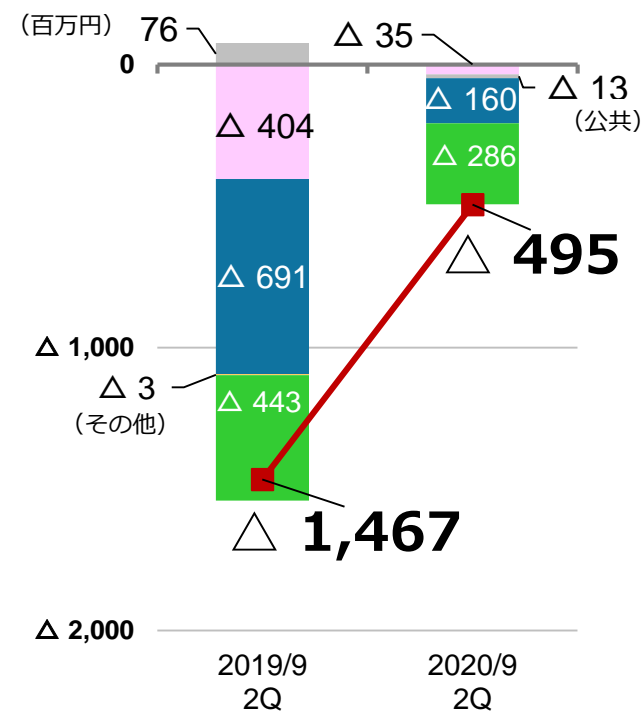
売上高



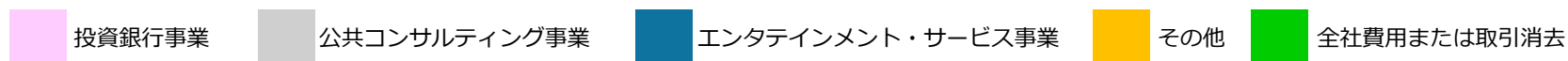
売上総利益



営業利益



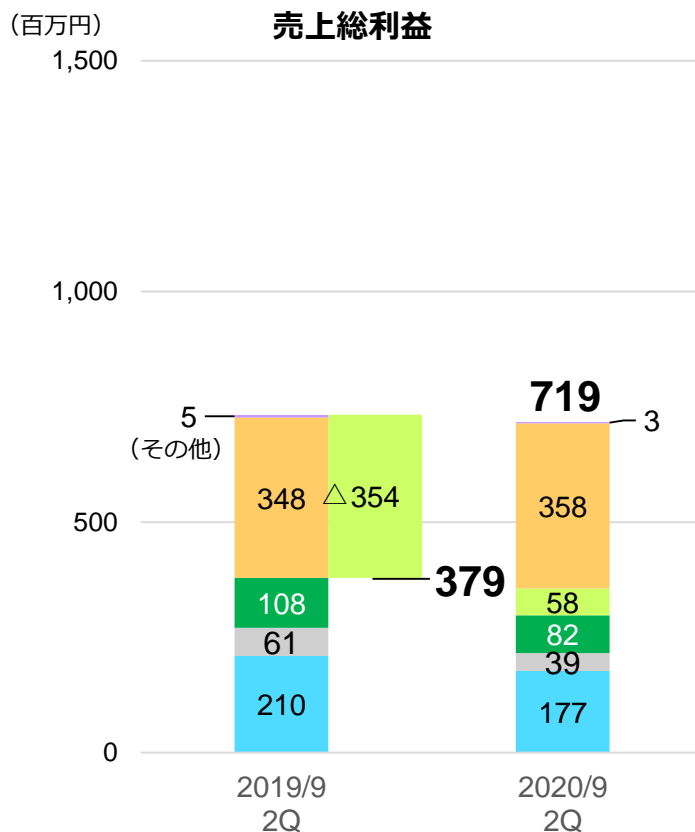
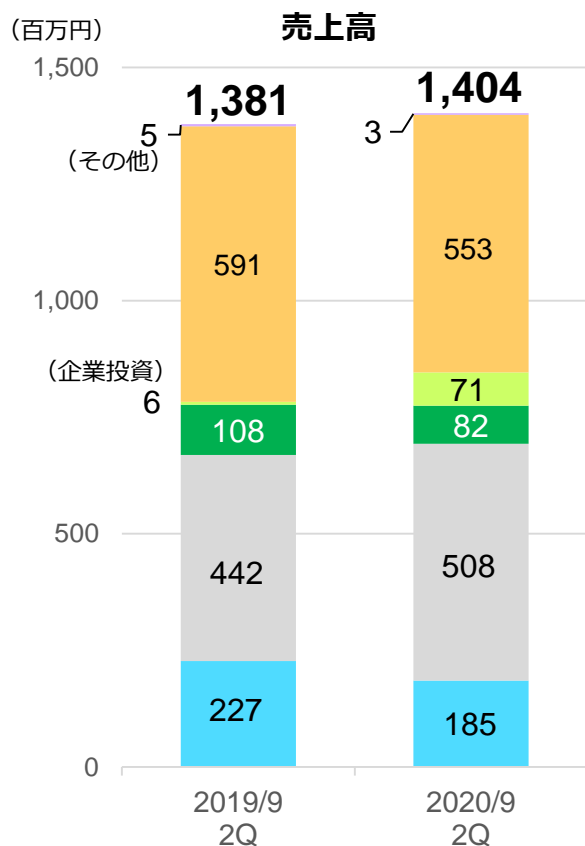
(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。



投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益

前期の企業投資の減損等の評価損の影響がなくなり、売上総利益は前年同期比89.4%増

- ・業務受託 不動産アセットマネジメントで売却の成約があったものの、決済が3Qとなった案件が数件あり、減収。
- ・アセット投資 不動産開発案件でエグジットがあり売上高が増加。
- ・企業投資 前2Qのファンド投資の減損等による影響がなくなる。
成長企業への投資でエグジットもあり、売上高、売上総利益とも増加。
- ・航空機アセットマネジメント 堅調に推移。



- その他
- 航空機アセットマネジメント
- 企業投資
- アセット投資
- メツツアビレッジ
- 業務受託 (アレンジ、アセットマネジメント、M&A仲介等)

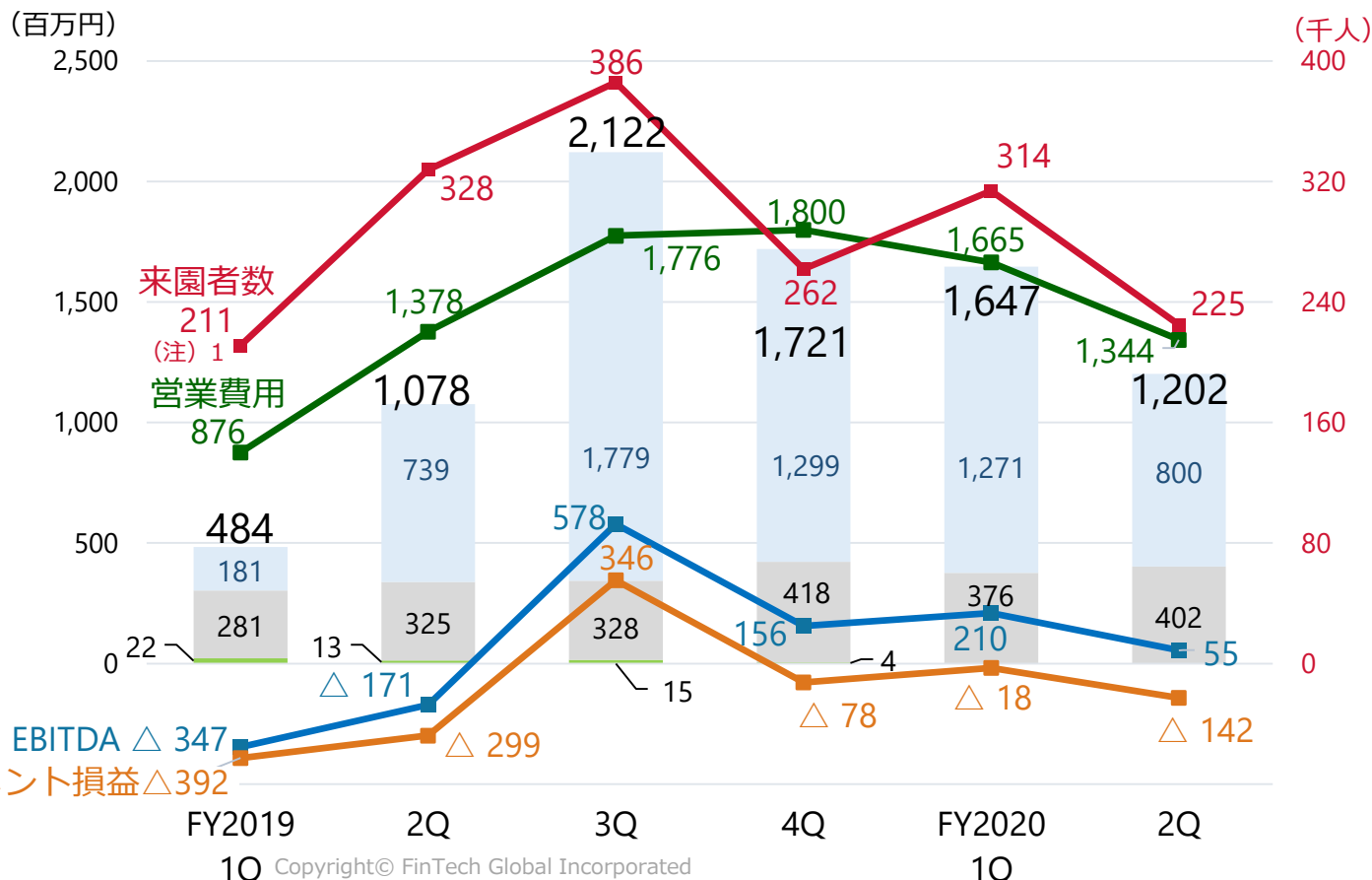
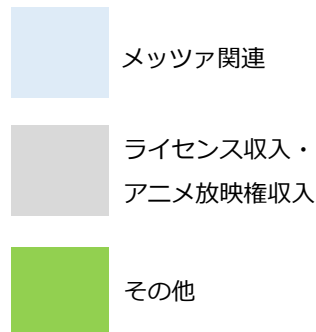
(注) セグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

エンタテインメント・サービス事業 業績等の推移（四半期）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ムーミンバレーパークは2Qに16日間の臨時休園。

- ・メツァ関連 2019年11月から平日の駐車料金無料化、1デーパス発売、イベントの充実、ストーリーガイド配布やストーリーの扉の設置など顧客満足度を高めることを通じて、来園者数を拡大し収益を向上させる施策を推進。
このようなサービス・コンテンツ等の充実を踏まえ、ムーミンバレーパークは3/14にチケット内容・料金を改定したが、3月2日以降に合計16日間、臨時休園としたため、2Qは1Q比でメツァ来園者数は28.3%減、売上高は27.0%減。
- ・ライセンス関連 ムーミンバレーパーク開業による注目度の拡大により、2019年10月以降に新規で17社と契約。
売上高は前2Q累計比で28.2%増。

売上高 (注) 2



(注)1 FY2019/1Qの営業日数は52日。プレオープンは含まず。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3 EBITDAは、営業利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

(注) 3 EBITDA △ 347
セグメント損益△392

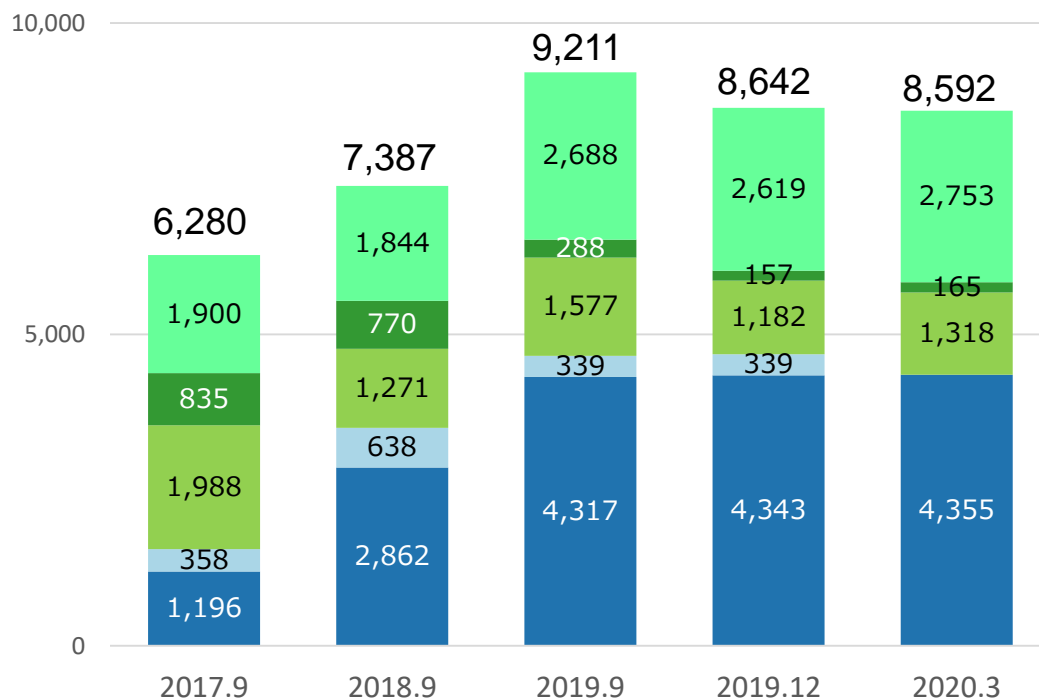
投融資残高の推移 (FGI,FGT合計)

2020年9月期2Q (2020/1~2020/3)の主な変動要因

- ・プリンシパルインベストメント 【投資実行】不動産M&A案件(次頁参照)を組成。不動産保有の資産管理会社へ出資。
【投資回収】成長企業への投資がエグジット。
- ・ベンチャーキャピタルファンド ファンドを通じてライフサイエンス企業へ投資。
- ・企業融資 臨時休園による運転資金として(株)ムーミン物語へ新規融資。
子会社SGIが配当を実施。SGIに出資する子会社SPCへの貸付を一部回収。

当社(FGI)、フィンテックグローバルトレーディング (FGT) の投融資合計額 (子会社への出資を含む)

(単位:百万円)



(注) FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

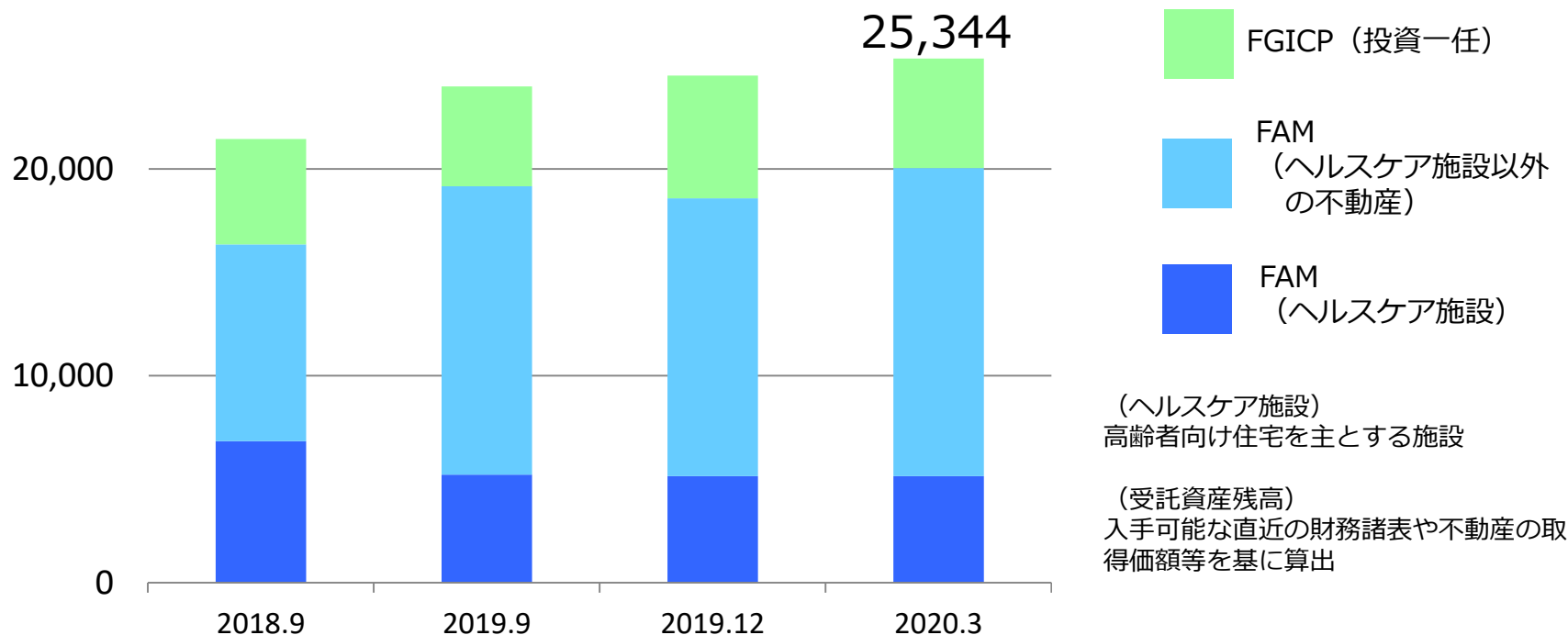
- プリンシパルインベストメント**
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金の合計額。
- ベンチャーキャピタルファンド**
FinTech GIMV Fund (FGF)、他2ファンドへの投資
- 企業融資**
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。
- 不動産等(投資銀行事業)**
投資銀行事業における運用不動産、開発用不動産。BSでは仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。
- 不動産等(メツア)**
メツアにおける不動産。メツアビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

FGIが出資する不動産M&A案件*の組成により、FAMの受託資産残高が増加。
 (当該案件は2020年4月にエグジット)

*不動産M&A

企業の事業等の売却・取得を目的とする一般的なM&Aに対し、主に不動産を主要資産とする法人の株式売却・取得を目的として行われるM&A。法人所有の不動産のみを売却・購入の対象とするのではなく、法人の株式の売買によりその法人が所有する不動産その他の資産・負債が株式の売主（旧株主）から買主（新株主）に移転される。

(百万円)



連結貸借対照表

資産の部

	19年9月期	20年9月期 第2四半期	増減
流動資産	10,438,589	9,150,001	△ 1,288,587
現金及び預金	2,533,187	2,251,436	△ 281,751
受取手形・売掛金	727,499	733,316	5,817
1 営業投資有価証券	1,359,941	1,241,997	△ 117,944
営業貸付金	548,625	529,995	△ 18,629
2 販売用不動産	4,211,988	3,910,618	△ 301,369
商品	208,577	284,077	75,499
3 その他	948,410	293,997	△ 654,412
貸倒引当金	△ 99,641	△ 95,438	4,203
固定資産	8,586,424	8,303,112	△ 283,311
4 有形固定資産	7,283,853	7,060,079	△ 223,773
無形固定資産	724,929	681,488	△ 43,441
投資その他の資産	577,641	561,544	△ 16,097
資産合計	19,025,014	17,453,114	△ 1,571,899

1 成長企業（1社）への新規投資を実行をしたが、ベンチャーキャピタルファンド（FGF）の投資先である創薬関連会社のエグジットに伴い分配を受けたことや、子会社SPCの不動産信託受益権売却が進んだことにより減少。

2 アセット投資（不動産開発案件）のエグジットにより減少。

3 消費税の還付により、未収消費税等が減少。

4 ムーミンバレーパークにおいて、コンテンツ充実のための投資を実施したものの、建物、内外装等の減価償却により減少。

5 アセット投資（不動産開発案件）がエグジットしたことに伴う借入金返済により減少。

6 一部の借入金をリファイナンスにより長期化。

負債の部

（単位：千円）

	19年9月期	20年9月期 第2四半期	増減
流動負債	3,010,093	2,163,738	△ 846,354
支払手形・買掛金	213,256	207,562	△ 5,693
5 短期借入金	373,904	79,283	△ 294,620
6 1年内返済予定の長期借入金	752,968	300,968	△ 452,000
未払法人税等	98,999	113,839	14,839
賞与引当金	157,244	145,361	△ 11,883
その他	1,413,720	1,316,723	△ 96,996
固定負債	7,141,750	7,153,711	11,960
6 長期借入金	6,086,260	6,220,871	134,610
退職給付に係る負債	94,633	102,696	8,062
その他	960,856	830,144	△ 130,712
負債合計	10,151,843	9,317,450	△ 834,393

純資産の部

株主資本	7,480,064	6,850,439	△ 629,625
資本金	6,461,911	6,462,062	151
資本剰余金	5,015,924	5,016,132	208
利益剰余金	△ 3,997,770	△ 4,627,756	△ 629,985
その他の包括利益累計額	△ 33,493	△ 38,488	△ 4,994
新株予約権	65,837	62,162	△ 3,674
非支配株主持分	1,360,762	1,261,550	△ 99,211
純資産合計	8,873,170	8,135,664	△ 737,505
負債純資産合計	19,025,014	17,453,114	△ 1,571,899

連結損益計算書

	2019年9月期 第2四半期累計	売上比	2020年9月期 第2四半期累計	売上比	増減額	増減率
売上高	3,277,955	100.0%	4,269,822	100.0%	991,866	30.3%
売上原価	2,327,007	71.0%	2,968,595	69.5%	641,588	27.6%
売上総利益	950,948	29.0%	1,301,227	30.5%	350,278	36.8%
販売費及び一般管理費	2,418,784	73.8%	1,796,335	42.1%	△ 622,448	△ 25.7%
営業損失 (△)	△ 1,467,835	△ 44.8%	△ 495,107	△ 11.6%	972,727	—
営業外収益	8,871	0.3%	7,508	0.2%	△ 1,362	△ 15.4%
営業外費用	108,594	3.3%	72,772	1.7%	△ 35,822	△ 33.0%
経常損失 (△)	△ 1,567,558	△ 47.8%	△ 560,371	△ 13.1%	1,007,187	—
特別利益	60,294	1.8%	5,672	0.1%	△ 54,621	△ 90.6%
特別損失	29,657	0.9%	74,827	1.8%	45,169	152.3%
税金等調整前四半期純損失 (△)	△ 1,536,922	△ 46.9%	△ 629,526	△ 14.7%	907,396	—
法人税等合計	47,096	1.4%	25,875	0.6%	△ 21,220	△ 45.1%
四半期純損失 (△)	△ 1,584,018	△ 48.3%	△ 655,401	△ 15.3%	928,616	—
非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	△ 339,502	△ 10.4%	△ 73,870	△ 1.7%	265,632	—
親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	△ 1,244,515	△ 38.0%	△ 581,531	△ 13.6%	662,983	—

(単位：千円)

1

当第2四半期累計期間は、前第2四半期の2019年3月16日に開業したムーミンバレーパーク運営による収益費用を期初から取り込み、売上高、売上原価ともに大幅に増加。企業投資の減損等は、前第2四半期の360百万円から当第2四半期は12百万円に縮小。

2

前第2四半期累計期間のメッツァ開業準備費用の負担がなくなる。その他の一時的費用、人件費も減少。前期の第4四半期の連結子会社減少もあり、前第2四半期累計期間比で25.7%減少。

3

2020年3月のムーミンバレーパークの臨時休園16日間の固定費（人件費、減価償却費等）を、臨時休園による損失71百万円として計上。

2020年3月頃に公表予定であった中期経営計画の見直しを中止

2020/9期を最終年度とする3ヶ年の経営計画（中期経営計画）を見直し、2020年3月頃を目途に策定して公表する予定であったが、2020年3月19日開催の取締役会において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の収束時期の目途が立っておらず不透明な状況であり、合理的な事業計画の策定は困難であることから、取りやめることを決定。



新たな中期経営計画策定は、事態収束後、改めて検討。

2020/9期の連結業績予想の公表も延期。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による業績への影響を見極め、
予想が可能となった時点で、開示予定。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響と対応

投資銀行事業

アレンジ・アセットマネジメント等の業務受託、アセット投資、航空機アセットマネジメントは現時点で大きな影響はないが、企業投資は一部業種の投資先企業に影響を及ぼしている。

項目	内容
アレンジ・アセットマネジメント等の業務受託、アセット投資	<ul style="list-style-type: none">・既存アセットマネジメント（AM）案件は、現時点においてコロナ禍の大きな影響はない。一部は施設の属性に応じて、投資運用戦略の見直しが必要。・当社出資案件を含む数件のAM案件において、物件売却が2Qに成約。当期中の決済予定。・新規案件のソーシングや、投資案件のエグジットで投資家の投資姿勢が慎重となる場合は、影響を受ける可能性あり。
企業投資	<ul style="list-style-type: none">・一部業種の投資先企業が、休業などにより影響を受ける。・投資案件のエグジットについては、投資家との面談に制限が出ており交渉に影響。今後、投資家の投資姿勢が慎重となる場合、エグジットに影響を与える可能性あり。・新規投資は、現在の経済状況を鑑み、厳選して行う方針。・再生案件が増加する可能性あり。
航空機アセットマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・航空機の保守・メンテナンスや技術に関するアドバイザリー業務への需要は、現時点では大幅に変動しない見込み。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響と対応

エンタテインメント・サービス事業

メッツァは緊急事態措置の解除後に状況を見極めて、メッツァビレッジを先行して営業再開することを検討。

第3四半期は、第2四半期より休園期間が長くなっていることから、第2四半期と比べてセグメント損益は悪化する見込み。

項目	内容
メッツァ休園状況・再開見込	<ul style="list-style-type: none">・2020年3月は、3/2以降ムーミンバレーパークを16日間臨時休園。(3/14~3/27は、様々な感染予防・拡散策を徹底して営業したが、3/28以降休園)・4/8以降は、政府の緊急事態宣言により、メッツァビレッジも臨時休園。・特定警戒都道府県である埼玉県では、緊急事態措置を継続実施中。営業再開は、緊急事態措置の区域からの除外や解除宣言を条件とし、その他の状況も総合的に考慮して判断する予定。なお、商業施設であるメッツァビレッジから先に営業を再開することを検討。
テナント対応	<ul style="list-style-type: none">・メッツァビレッジのテナントに対し、2020年3月、4月の家賃を一部減免。
ライセンス事業	<ul style="list-style-type: none">・全国巡回している原画展は、2020年4~5月の岩手展が中止、その他の物販催事も複数の会場で中止。今後もイベント等の開催に影響がある可能性あり。・ライセンサーが運営する実店舗、主要販路である百貨店など大型商業施設の休業による影響があるが、オンライン販売を始め今後需要が伸びると予想される販路や商品分野の強化により対応。

連結経営指標等の推移

		2015年 9月期	2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年9月期 第2四半期
売上高	(百万円)	5,429	7,485	7,182	3,689	9,175	4,269
売上総利益	(百万円)	2,495	1,496	1,626	2,261	2,944	1,301
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	115	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664	△ 495
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	237	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850	△ 560
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	224	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 1,586	△ 581
純資産	(百万円)	7,879	6,312	5,326	8,551	8,873	8,135
総資産	(百万円)	11,958	10,975	12,932	14,016	19,025	17,453
1株当たり純資産	(円)	48.31	38.66	29.64	39.31	37.03	33.87
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	1.48	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08	△ 2.89
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	1.47	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	65.4	57.0	37.1	52.2	39.1	39.0
自己資本利益率	(%)	3.4	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5	-
株価収益率	(倍)	84.7	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,791	△ 1,305	△ 1,153	△ 2,978	△ 2,604	766
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 644	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543	△ 206
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,761	△ 751	2,937	5,771	5,710	△ 841
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	4,612	2,240	2,969	3,847	2,513	2,231
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	117(8)	114(20)	143(27)	156(47)	167(262)	142(268)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	38(3)	45(8)	40(6)	38(5)	39(5)	24(4)

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階		
設立	1994年12月7日		
代表	代表取締役社長 玉井 信光		
上場日	2005年6月8日		
証券コード	8789 (東京証券取引所マザーズ市場)		
事業年度	10月1日から9月30日まで		
事業内容	①投資銀行事業 ②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業		
発行済株式総数	201,114,600株 (2020年3月31日現在)		
単元株式数	100株		
資本金	6,462百万円 (2020年3月31日現在)		
連結純資産	8,135百万円 (2020年3月31日現在)		
大株主 (2020年3月31日現在)	玉井 信光 (株)CAT-MY	10,095,500 10,000,000	(5.02%) (4.97%)
連結従業員数	142名 (2020年3月31日現在、臨時従業員含まず)		

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2020年9月期第2四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。